

# ふるさとふちゅう

【第15回】府中町で体験、四国お遍路（1）

## 再発見

四国お遍路は「四国八十八カ所霊場巡り」「四国巡礼」などと呼ばれ、当初は弘法大師（空海）にちなむ四国各地を巡る宗教的な修行でした。平安時代末から江戸時代初めまでに弘法大師に縁の寺院を巡る形になり、江戸時代前期には、八十八カ所の札所（霊場）が確定、各札所を結ぶ遍路道や道標、宿泊施設などが整備されていきます。札所の呼称は巡拝した寺院の天井・柱などに住所・氏名・願い事などを記した木札を打ち付けたことによりま

す。江戸時代後期には、庶民



正観寺「お砂踏み階段」

の間でお伊勢参りや金毘羅参りといった巡礼や聖地めぐりが全国的に広がり、四国遍路も盛んになりました。近年では、本来の信仰心に基づく人だけでなく行楽・観光・納経帳への集印、「自分探し」など個人の精神修養、健康のためなどを目的とする人もいます。

ところで、四国八十八カ所は総距離約1400キロメートルで容易に巡拝できません。そこで各地に「新四国」「移し遍路」と呼ばれる縮小版の八十八カ所が作られました。島内を一周するように札所番号や本尊を彫った石仏を配置して巡るものを「島四国」と呼び、香川県小豆島や広島県因島・生口島などはよく知られています。範囲も数か村から1村単位、さらに小規模なものまで多様です。広島県で最大規模は県西部の寺院を巡る「広島新四国八

十八カ所」で、府中町内の5つの寺が含まれています。小規模なものでは寺院を中心に山道に石仏を配し、巡拝するものがあります。身近では府中町の道隆寺を中心とした「赤羽根新四国八十八カ所」や海田町の大師寺から日の浦山頂上へ向かう「日の浦山四国八十八カ所」があります。

さらにコンパクトな例が府中町茂陰の真言宗正観寺の「お砂踏み階段」です。丘上の弘法大師像に至る石段に札所名を彫り、その下に該当する四国の寺院から運んだお砂を敷いています。一段一段と石段を踏み登ることで府中町に居ながら四国お遍路を体験できます。

次回から、府中町内の「新四国」に関わる寺院を紹介していきます。

府中町文化財保護審議会委員

菅 信博

健康に役立つ  
情報を紹介

## 朝パッ君の耳より情報

健康推進課  
☎286-3257

### ＼からだにイイことはじめよう／ 府中町ふらっとウォーキングコース

暖くなるこれからの季節は、気軽にひとりでも始められるウォーキングがおすすめです。

町内には、子どもから高齢者まで気軽に運動できる「府中町ふらっとウォーキングコース」が整備されています。ウォーキングしながら、町の魅力や春を発見してみてください♪



府中町役場や府中大川沿い、空城山公園を通る、約6.1km、約1時間30分のコース。路面にある朝パッ君のコースサインが目印だよ♪足元を探してみてくださいね！



コースマップは町ホームページからダウンロードできます ▶

